

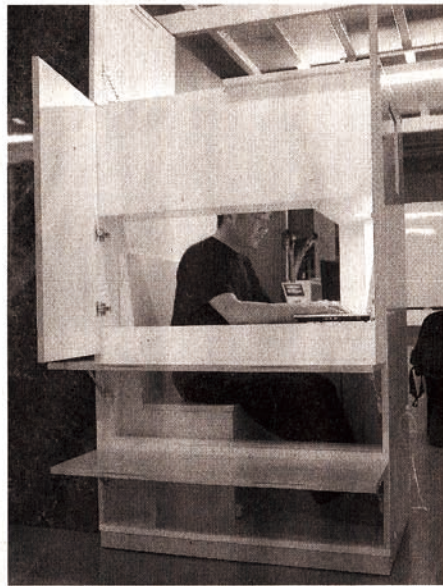
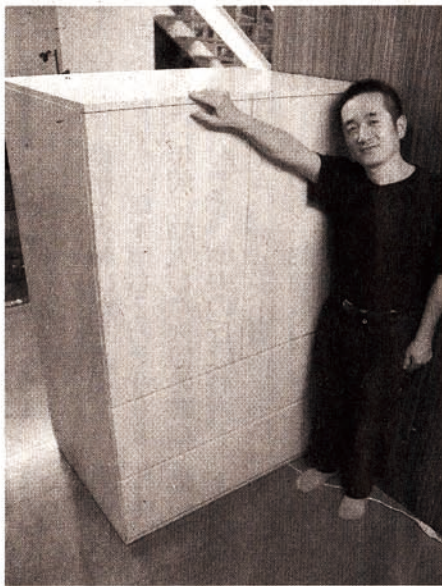
越谷の家具会社が開発

見た目はタンス ミニ書斎

見た目はクローゼット、扉を開けるとミニ書斎。越谷市の家具製造販売会社が、大人の秘めた欲求をかなえるオーダー家具「親爺のかくれんぼタンス」を開発した。参考価格60万円と安くないが、材料の品質や機能次第では、半額近くに抑えることも可能とか。キャスター付きで、動かすこともできる。東日本大震災後、「早く家に帰りたいと思える商品」と発案された遊び心満載の家具だ。

サイズは幅100センチ、奥行き72センチ、高さ160センチ。扉を開けて中に入ると、固定された椅子があり、机と向き合う形に。本棚や電源、パソコンのプリンターなどが収納できるスペースがコンパクトに配置されている。身長170センチ前後、体重65キロ程度の成人が、ノートパソコンで作業した

り、読書を楽しんだりできるように設計された。上部にはサンルーフ。観音開きの扉のほか、各所の横板も外に開けられるようになってい。すべて開けると手足が伸ばせる。視界も広がり、閉所が苦手という人でも入れそうだ。一人きりになりたい場合は閉め切って。家族の存在を感じ



外観はごく普通の洋服ダンス（左）でも、中を開けるとミニ書斎に早変わりする様子を、枝久保店長が実演

かくれんぼヒント／大人の秘密基地

ていたい時には、横板を開けばさみしくない。開発したのは、間取りや用途に応じた収納家具のオーダー製作を手がける製造販売店「オーダー家具卸値センター」。アイデア家具の製作にも積極的で、SL型の「デゴイチたんす」、中に隠し金庫のついた「たんす預金タンス」などの開発実績がある。

今回の「親爺のかくれんぼタンス」は、同店の枝久保剛店長(41)が「家具屋の立場から、ご主人が会社に残業せずに『一秒でも早く帰宅したい』と思える魅力ある家造りに貢献できないか」と思案したのがきっかけ。震災で、家族の絆のかけがえのなさを痛感したからという。

「狭くてもいいから作業部屋が欲しい」と漏らしていたプラモデル作りが趣味の顧客を思い出していたところに、来店した子どもがショールームのタンスの中に隠れて遊んでいたのを見た枝久保店長。「書斎への欲求と隠れ家ブームへの回答だ」と、家具のイメージがひらめいた。

3月中旬からモデルの製作に取りかかり、6月上旬に完成。現在、同店ショールームで展示中だ。実際に注文する場合は、デザインやサイズ、素材、内部のレイアウトなどを自由に変更できる。価格は応相談。

問い合わせは、午前10時～午後11時、同センター(☎0120・658・44)へ。木曜定休。